

高精度。パーティクルカウンタの開発と ひのき廃材の活用

油中のごみ等の粒子を計測する パーティクルカウンタの開発への協力

プラントテクノス（株）＜福井県敦賀市＞

原子力発電所や一般の製造工場では、潤滑油等が大量に使われています。この油は決められた基準により管理されており、油中のごみ等の量を計る事は設備等の状態を把握する点でも重要な項目の一つです。この油中のごみ等の粒子を計測するには、パーティクルカウンタが使用されていますが、油中の気泡もごみとしてカウントしてしまう課題を抱えています。原子力機構では、プラントテクノスより、油中のごみ等の粒子をより正確に測るため、新しい方式のパーティクルカウンタの開発について技術相談を受け、**原子力機構のレーザー技術等**を活用し研究開発を支援しています。



パーティクルカウンタの性能試験

ひのき廃材を活用した新たな商品化への協力

(有) 井上木材センター ＜福井県若狭町＞

‘ひのき’は、「古事記」に記載があるほど古来より日本の建築に使用されている材料であり、世界最古の木造建築「法隆寺」も全て‘ひのき’で出来ています。また、今日の日本建築においても‘ひのき’は最高品質の建材として需要が高いものです。原子力機構では、井上木材センターより、‘ひのき’製品の製造過程で発生する‘廃材（チップ・粉状）’を利用した新商品の開発について技術相談を受けました。‘ひのき廃材’からの‘ひのき油’を抽出する技術や、‘ひのき廃材’と機構の特許‘**高吸水性ハイドロゲル**’とを混合することで新たな素材とし、この素材を利用した製品の開発など、廃材を有効利用した新しい製品開発の支援をしています。



ひのき廃材からの抽出試験

平成23年度 技術相談



原子力機構